

日常業務から研究テーマを見出せる臨床検査技師をめざして

◎榎本圭織¹⁾ 古川明音¹⁾

神戸大学 医学部保健学科 検査技術科学専攻¹⁾

【はじめに】

本学における病院実習は、1年次に1日（病院全体の見学実習）、3年次後期に2日間（検査部の見学実習）、4年次後期に2ヵ月間（検査部での臨地実習）実施される。そのため、現時点で私たちは現場で働く臨床検査技師の実像について十分に理解できていないが、将来なりたい臨床検査技師について私たちなりの考えを述べたい。

【進学と就職】

本学には、修士課程と博士課程が設置されており、検査技術科学専攻における学部卒業後の進路は、修士課程への進学が約半数を占め、残りの半数が病院や企業に就職する。私たちも学部卒業後は修士課程への進学を希望しており、修士課程修了後に病院に就職したいと考えている。

【研究のできる臨床検査技師】

私たちは、日常の業務の中から問題点を見出し、そしてその問題を解決するための研究ができる臨床検査技師になりたいと思っている。そのような臨床検査技師になるためには、日常業務に精通している、問題解決のための研究の立案と実

施ができる、得られたデータをまとめて学会と論文で発表できる等の能力が必要となる。日常業務に精通するのは就職後のことになるが、研究や発表の方法については修士課程でしっかりと学びたいと考えている。

【チーム医療に貢献できる臨床検査技師】

1年次の見学実習で院内のカンファレンスを見学した際に、主に発言していたのは医師と看護師であり臨床検査技師の発言は非常に少ない印象であった。私たちは、チーム医療においても存在感のある臨床検査技師になりたいと思っている。そのためには、臨床検査の原理や技術のみでなく疾患の原因や治療法、他の医療スタッフの業務内容など様々な知識が必要だと感じている。

【おわりに】

チーム医療はもちろん、研究も一人では実施できない。私たちが理想としている臨床検査技師になるためには、知識や技術の習得のみではなく、皆に信頼され協力してもらえる人間性の習得が重要と考えている。